

実り多き新しい年に



学長 武藤 輝一

新しい年を迎える学生諸君も教職員の皆さんも、何とはなしに、あるいははつきりと意識して、今年こそは：

という覚悟を持つて、新しい年を迎えて直したらいいか、まずは近い将来に向けてどうすればよいかを考えることで

どうすればよいかを考えることで、私は小学校6年生の時、3年生の時からの担任であった

には「アバイトがなく、積極性がない」という意味を含んでいることがあります。平素の自分の発言には

「キヤリア（開発）教育」の始まりはなんといっても「個々の人の自己分析と認識」であります。中学生は中学生なりに、大学生は大学生なりに、自分の善い点はどこか、悪い点はどこかをよく知り、悪い点はどうして直したらいいか、まずは近い将来に向けてどうすればよいかを考えることで

あります。時にはその言葉の裏には「アバイトがなく、積極性がない」という意味を含んでいることがあります。平素の自分の発言には

自信と責任を持ち 積極的に行動しよう

若いときに
は永く見える
人生ですが、年とて振り返ると
短い人生です。あつと思う間に月
日が過ぎ去ってしまいます。新しい
年の一日一日を大切に過ごしたいも
のです。

皆さんにとって実り多き一年とな
りますよう祈念致しております。

最近はどの大学でも、在学中に「キャリア（開発）教育」が行われ、インターナンシップを経験されるようになりました。「キャリア（開発）教育」の言葉が用いられるところ、この言葉の意味する

ところを理解できる人は多くはないで
しょうか。

「キヤリア（開発）教育」の始まりはなんとしても「個々の人の自己分析と認識」であります。中学生は中学生なりに、大学生は大学生なりに、自分の善い点はどこか、悪い点はどこかをよく知り、悪い点はどうして直したらいいか、まずは近い将来に向けてどうすればよいかを考えることで

あります。時にはその言葉の裏には「アバイトがなく、積極性がない」という意味を含んでいることがあります。平素の自分の発言には

CONTENTS

(2・3面)

次期学長に平山征夫前新潟県知事
情報システム学会全国大会を開催
韓国で慶熙大と再び学術交流
ノースウェストから学部長が表敬

最終講義のご案内
新任教員紹介

(4・5面)

私の研究テーマ
お薦めBOOK
教員の活動(2007年下半期)

6面

3回の国際理解セミナー
写真家・板垣真理子氏を迎える講座
青少年のための科学の祭典に参加

7面

卒論中間発表会開く

企業懇談会に過去最高の参加
平成20年度入試日程案内

(8面)

卒業生の便り
「紅翔祭」報告
湧源(編集後記に代えて)

次期学長に平山征夫前知事



教育への情熱と地域貢献に期待

学校法人新潟平成学院は12月12日、理事会の推薦する候補者について学長候補者選考委員会を開催。その答申を受け引き続き開かれた理事会において本学の次期学長に、前新潟県知事の平山征夫氏を全会一致で決定しました。任期は平成20年4月から4年間。2期8

年務め任期満了となる武藤輝一現学長理事長は理事長職に専念し、学校法人の経営を担うことになります。

平山氏は柏崎市出身。日本銀行新潟支店長などを経て平成4年から3期12年にわたり県知事として県政発展に尽力されました。県内

大学長と懇談会を開催するなど高等教育の充実にも積極的に取り組まれ、平成6年の本学開学に当たっては多くのご指導をいただきました。

県知事退任後は平成17年4月から、長岡技術科学大学の特任教授として地域経営概論や実践企業論などの授業を通じ、学生教育に熱い情熱を注がれています。地方の私立大学がおられた厳しい環境でした。

同氏は「少子化により大学経営もますます厳しくなるが、地域の人材育成の中核として生き残れるよう、魅力ある大学づくりに全力を傾けたい」と抱負を述べています。

ダーシップが期待されます。

武藤学長は理事長職に専念へ

「地域からの挑戦」をテーマに

「情報システムによる価値の創造～地域からの挑戦～」をテーマに、情報システム学会の第3回全国大会・研究発表大会が11月30日・12月1日の両日本学新潟中央キャンパスにおいて開催されました。

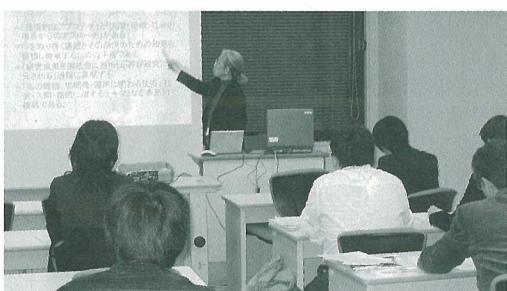
「災害と情報システム」

泉田知事らが特別講演

新潟では平成16年の中越地震災翌17年の新潟大停電、そして昨年の新潟県中越沖地震と多くの災害を経験しました。災害の救援・復旧・復興は人間活動を含む情報システムの再構築の過程でもあることから、12月1日には「災害と情報システム」をテーマに特別講演が行われました。災害対策の最高責任者として多くの活動の指揮を執つてこられた泉田裕彦新潟県知事から「社会的システムとしての救援・復旧・復興活動」に関して講演をいただきました。またすべての災害を経験された今井辰夫コロナIT企画室副部長から、「業務の継続性確保に有効な人間の活動を含んだ情報システムの開発」の講演をしていただきました。多くの具体事例や現場の写真等による講演内容で、参加者の7割を占めています。

情報システム学会全国大会 本学で開催

「年金記録」倫理面でも活発な討論



研究発表は同日に5会場に分かれて、災害と情報システム、リスク対応、企業システム、ITと情報システム、情報システム環境・人材育成、新しいシステム環境などのセッションとしてた関東地域からの参加者の皆さんに有用な講演となりました。

研究発表は同日に5会場に分かれて、災害と情報システム、リスク対応、企業システム、ITと情報システム、情報システム環境・人材育成、新しいシステム環境などのセッションとして講演に関連した地域セッションが行われました。講演には、災害と情報システム／地域からの挑戦においては、県市地域企業・大学の関係者の「協力により10件の研究発表を行なうことができました。このような活動を継続し新潟地域の情報サービス産業の活性化に役立つようになることを願っています。

また、11月30日には年金記録管理システム問題討論会が開催されました。社会的に関心の高い「にいがた産業創造機構」の関係者の皆さんに感謝いたします。

大会の詳細は左記のURLを参照ください。また卒業生の皆さんの学会への入会をお待ちしております。最後にご協力をいただきました県・市・地域企業の皆さんや、後援をいただいた「にいがた産業創造機構」の関係者の皆さんに感謝いたします。

また、本学の学生も62名が参加しました。県外からの参加者に占める企業と大学関係者の比率はほぼ半々で、大学関係者が主体の通常の学会に比べ情報システム学会の特色となっています。

新任教員紹介



山下 功
(情報システム学科・講師)

<担当科目>

管理会計、財務会計、基礎演習、情報処理演習U1、情報システム演習、専門演習C、卒業研究

<専門分野>

会計学。大学・大学院では管理会計を専攻。企業では財務会計の業務に携わり、2000年の「会計ビッグ・バン」を実地で体験。現在は、複数企業間での連携における戦略的原価管理を研究。

<略歴>

1996年3月 横浜国立大学経営学部会計・情報学部卒業。
1998年3月 同大学院経営学部研究科修士課程終了。
1998年3月~2003年4月 ミツミ電機株式会社 経理部。
2007年9月~ 新潟国際情報大学情報文化学部専任講師。

私はこの4年間というもの、第2次世界大戦末期のある一機のB29戦闘機の乗務員を巡る複雑でやっかいな執筆に取り組んできました。それは1945年7月20日、旧横越町に近い旧焼山村でB29が墜ち落とされたとき、乗務員を捕らえた村人たちにかかわる物語であります。数年におよぶ調査の結果、新潟の歴史上たぐいまれな事件を取り巻く謎がようやく解け始めました。あの夜死んだ4人の男たちは、どのようにして命を落としたのか？

みんなが「会計」という言葉から真っ先に想像するのにはテレビや新聞で報じられる決算発表ではないでしょうか。これは株主や投資家など企業の業績を報告するものであり、このように、外部の利害関係者への報告を目的としている会計を財務会計といいます。

それに対して、管理会計は企業の目標を達成するために用いられるもので、企業の内部への報告目的が重視されます。企業の目的とは、究極的には利益を獲得することです。管理会計は「利益獲得のために会計情報を活用すること」なのです。そして「原価

核算」であります。この分野における大量の記録文書と日本人の回想録、アメリカの情報公開法案により機密扱いが解かれてもない報告書類に負う

この事件の両側の証言者にいたり、物語形式で綴りました。まず、村人たちがいかに乗務員の捕虜をめぐる出来事を隠蔽しようとしたか、捕虜となつたB29乗務員たちの恐ろしい

7月20日の事件の後日談

ところも多々あります。この本の一つの見せ場は、新潟で撮影された初公開となる一連の写真です。彼らは、乗務員が捕虜となりリンチが加えられた様子を明らかにし、われわれの胸をえぐらずにはおきません。

ところも多々あります。この本の一つの見せ場は、新潟で撮影された初公開となる一連の写真です。彼らは、乗務員が捕虜となりリンチが加えられた様子を明らかにし、われわれの胸をえぐらずにはおきません。

B29戦闘機の捕虜と村人の物語

情報文化学科教授 グレゴリー・ハドリー

私の研究テーマ

管理「管理会計の中心を占めています。

また、管理会計の手法は、ジエネラル・エレクトリック(GE)やトヨタ自動車をはじめとした、数々の企業での実践から生まれたものが特徴

「経営に役立つ管理会計」

情報システム学科 講師 山下 功

管理会計はマネジメントアカウンティングを和訳したもので、ところが「管理」という言葉には「人を締め付ける」という印象があるため「経営会計」と呼ぶべきであるという考え方もあります。これは、

この研究はしかし、半世紀以上前に起きた事件を物語るにとどまるものではあります。歴史の輪が巡したいま、本書は今日われわれの生活を脅かす人権問題に洞察を与え、現代の兵士が安全な高みから恐怖と怒りに囚われた暴徒の手に落ちたとき、何が待ち受けているかを思い起させ、われわれの頭を冷やしてくれるでしょう。(訳矢口裕子)

左記のウェブ頁（外国人特派員協会での英語による会見の模様）も参照を。
http://www.nms.ac.jp/hadley/publication/F&S/RCI/Presentation/FCCJ_300kswf.pdf

近藤進(情報システム学科・教授)

・講演「情報インフラと災害に対する情報通信の課題」信越総合通信局、信越地方非常通信協議会、信越情報通信懇談会「安心安全な社会の実現」のための防災セミナー(ホテル新潟、2007年7月4日)。

佐々木寛(情報文化学科・准教授)

- ・(2007)「柏崎刈羽原発被災から見えたもの—リスク社会とアジア原子力政治の未来」『アジア時報』12月号(2-3頁)。
- ・講演「ナスマの家を訪れて—エクスボーリーとしての平和教育」北東アジアの女性史を学ぶ会(万代市民会館、2007年7月15日)。
- ・コーディネーター「徹底討論『平和』」ナインにいがた主催(クロスパルにいがた、2007年9月17日)。
- ・講演「地球人の政治学—南北問題」と日本」大田区民大学・地球人セミナー(大田区民プラザ、2007年10月2日)。
- ・講演「ようこそ平和へ!」坂井輪地区公民館人権講座第1回(同公民館、2007年11月7日)。
- ・講演「世界社会の現状と国際理解教育の意義」定時制・通信制チャレンジ事業(文部科学省)第5回実践研究委員会(新潟県立新潟翠江高等学校、2007年11月21日)。
- ・講演「なぜ今、格差社会なのか、それは社会の仕組みか、自己責任か?」アルザフォーラム2007(万代市民会館、2007年11月24日)。
- ・「対テロ戦争と人権侵害」アムネスティインターナショナル「ラビア・カーデイル講演会」解説(クロスパルにいがた、2007年11月25日)。
- ・講演「コミュニティと平和」坂井輪地区公民館人権講座第4回(同公民館、2007年11月28日)。

管理会計の研究領域は多岐にわたりますが、現在、私は「企業間原価管理」の研究を行っています。そのため私たち研究者は、企業でどのような経営が行われているかに常に关心を持ち、その中から優れた手法を「発見」することが求められます。

管理会計の内容を的確に表現した名称であると思いま

す。管理会計の研究領域は多岐にわたりますが、現在、私は「企業間原価管理」の研究を行っています。そのため私たち研究者は、企業でどのような経営が行われているかに常に关心を持ち、その中から優れた手法を「発見」することが求められます。

・司会「憲法9条であるさとを守れるか—生活・地域からの平和構想」市民文化フォーラム(総評会館、2007年12月8日)。

・講演「この国のゆくえ—新テロ特措法と憲法」9条しばたネット(新発田市カルチャーセンター、2007年12月14日)。

藤瀬武彦(情報システム学科・教授)

- ・(2007)「『免許』とその『更新制度』について思うこと」『新潟体育学研究』第24巻14。
- ・編集『筋力トレーニングの三大基本種目で競技を行うパワーリフティングを始めてみませんか?』新潟県パワーリフティング協会発行、共立印刷(全22頁)。

武藤輝一(学長)

・特別講演「胃切除術式とその再建術式の変遷」第10回横浜北部臨床消化器研究会(昭和大学横浜北部病院消化器病センター、2007年12月8日)。

吉澤文寿(情報文化学科・准教授)

- ・書評:長田彰文『日本の朝鮮統治と国際関係』(平凡社、2005年)『歴史学研究』第829号、2007年7月。
- ・講演「日韓会談文書公開運動から見えてきたもの」日韓会談文書・全面公開を求める会裁判報告集会(東京:弁護士会館、2007年9月25日)。
- ・研究報告「日韓会談第3次開示文書の不開示部分の検討」日韓会談文書・全面公開を求める会講演・総会(東京:YMCAアジア青少年センター、2007年12月16日)。

【新潟 地図ウォッチング】

鈴木郁夫・赤羽孝之監修
新潟地図ウォッチング編集委員会編著
新潟日報事業社(2006年)

みなさんは「地形図」と呼ばれる地図を見たことがあるでしょうか？

地形図は、2次元座標上に描かれた等高線という曲線を読むことで、3次元的な空間認知を可能にするものです。つまり地形図を見るといつこには、その土地を真正から立体的に俯瞰することになります。さらにさまざまな地図記号によって、どこに何があるのかはより、土地利用や植生の状態、場合によては地質まで大ざっぱに把握できてしまう。地形図こそは地理的情報の宝庫なのです。

本書は、新潟県内から109地域を



『運は数学にまかせなさい —確率・統計に学ぶ处世術』

本学図書館のWEBサイトに個性あふれる教員たちの紹介文が載っています。アクセスしてみてください。
<http://www.nu.ac.jp/ic/library/book/book2005.htm>

By Jeffery S. Rosenthal
The Curious World of Probabilities

ジエフ・エリーソン・S・ロゼンタル著
中村義作監修 柴田裕之訳
早川書房

STRUCK BY LIGHTNING

By Jeffery S. Rosenthal
The Curious World of Probabilities

「確率が高い」と「可能性がある」とを混同している例を良く見受けます。とかく日本人は確率という言葉に弱いようです。例えば、「いい人の方が高収入ー従業員の快活さと親切心が2%向上するたび、年収が1%増加する」との記事は何を伝えたいのでしょうか。

私たち無作為性と不確実性に満

(情報システム学科・講師 小野陽子)

取り上げ、主に国土地理院発行の「1/2.5万地形図」を用いながら、その土地における特徴的な自然景観・産業・文化遺産等を簡潔に紹介したものです。読者は見学ルートの入った地形図をじっくり眺めながら解説を読むことによって、文章だけでは到底得られないさまざまな情報の把握が可能となります。

本書に掲載された地形図の中に、自分が生まれ育った場所が含まれているという人は少なくないかもしれません。しかし、そこがどんなところかを地形図上で実際に確認したことがある人はほとんどないのではないかでしょう。国際化も大切ですが、自分の地元を知ることはもっと大切なことだと私は常々考えています。本書は、新潟をより深く知りたいと考えている人のためのガイドとして、あるいはテキストとして最適な冊です。

(情報文化学科・教授 澤口晋一)

教員の活動(2007年下半期・本人申告による)

1)研究論文・図書

池田嘉郎(情報文化学科・講師)

・(2007)『革命ロシアの共和国とネイション』山川出版社(全286頁)。

臼井陽一郎(情報文化学科・教授)

・'The Democratic Quality of Soft Governance in the EU Sustainable Development Strategy: A Deliberative Deficit.' *Journal of European Integration* Volume 29 Issue 5, pp.619-634. (Dec. 2007).
・(2007)「気候変動問題の構成と国際共同行動の展開:気候変動レジーム・国連環境計画・欧州連合(3・完)」『慶應法學』第8号(75-121頁)。

小山田紀子(情報文化学科・教授)

・共著(2007)「アルジェリア」平野健一郎・牧田東一監修『対日関係を知る事典』平凡社。

長坂格(情報文化学科・准教授)

・2007, "Cellphone in the Rural Philippines" in Raul Pertieria (ed.) *The Social Construction and Usage of Communication Technologies: Asian and European Experiences* Quezon City: University of the Philippine Press, pp. 100-125.

2)学会・研究会報告

池田嘉郎(情報文化学科・講師)

・「スターリンのモスクワ改造と水辺空間」都心・ペイエリア、海外都市再生プロジェクト合同研究会(法政大学大学院エコ地域デザイン研究所、2007年7月18日)。
・「現代都市類型から見た20世紀モスクワ」都市史研究会シンポジウム(東京大学、2007年11月10日)。

臼井陽一郎(情報文化学科・教授)

・'A Discursive Perspective on the Construction of an Environmental Acquis in the EU and ASEAN.' 2007 UACES International Conference: Exchanging Ideas on Europe. Panel 4: Environmental Policies. The University of Portsmouth 3rd-5th Sep.2007.

區建英(情報文化学科・教授)

・「中国の国粹派と日本の国粹主義」奎章閣韓国学研究院「近代東アジアの歴史とアイデンティティ」(韓国ソウル大学校、2007年9月13-14日)。
・「厳復の中西文化『会通』と自由」福建省嚴復學術研究会「嚴復の思想と中国の近代化」(中国・福州、2007年11月24-25日)。

小林元裕(情報文化学科・准教授)

・『東亜新秩序』と中国—汪兆銘政権・蒙疆政権の分析を中心に—「日本植民地研究会第15回全国研究大会「東アジアにおける『共同体』論の諸相—植民地・占領地研究の視点から」(立教大学、2007年7月1日)。

藤瀬武彦(情報システム学科・教授)

・藤瀬武彦・他「アームレスリング競技者の形態的特徴及び上腕内旋力」日本体育学会第58回大会(神戸大学、2007年9月7日)。

山下功(情報システム学科・講師)

・「情報システムの投資評価方法」第3回情報システム学会全国大会・研究発表大会(新潟国際情報大学新潟中央キャンパス、2007年12月1日)。

吉澤文寿(情報文化学科・准教授)

・「日本における日韓会談関連外交文書の公開について」「韓日会談研究の新しい地平:国際比較研究」(韓国・ソウル:国民大学校、国民大学校日本学研究所、2007年10月13日)。
・「新潟国際情報大学の派遣留学制度について」シンポジウム「日本人韓国語学習者のための韓国語教育」(韓国・ソウル:慶熙大学校、2007年11月2日)。

3)その他

池田嘉郎(情報文化学科・講師)

・北海道大学ラバ研究センター冬期国際シンポジウム「アジア・ロシア:地域的・国際的文脈の中の帝国権力」第7セッション「民族運動・革命運動の場としてのアジア・ロシア」司会(2007年12月7日)。

越智敏夫(情報文化学科・教授)

・パネル討論者「『映像の政治学』は可能か?」2007年度日本政治学会総会・研究会(明治学院大学 白金キャンパス、2007年10月6日)。
・パネル司会者「ポピュリズム」2007年度日本政治学会総会・研究会(明治学院大学 白金キャンパス、2007年10月6日)。
・講演「市民政治における選挙の意味—政治は変えられるのか」新潟県平和運動センター主催(新潟県勤労福祉会館、2007年9月22日)。

小山田紀子(情報文化学科・教授)

・コメントーター「現代フランスにおける植民地主義の記憶—『フランスのアルジェリア』から反アラブ人種差別へ—」マグレブ研究会 Benjamin STORA氏(パリ第8大学教授)「アルジェリア現代史とフランス」(上智大学アジア文化研究所、2007年12月7日)。

熊谷卓(情報文化学科・准教授)

・2007年度JESSUP国際法模擬裁判世界大会日本支部大会において「書面裁判官」の責務を担当(同志社大学、2007年12月27日)。

小林元裕(情報文化学科・准教授)

・講演「北京・上海で考える日中関係」にいがた市民大学「体感・変わりゆく中国の都市—北京・上海のくらし—」(新潟市生涯学習センター、2007年7月26日)。

■ 第1回

「私たちが東アジアで『観光』を語る意義—東南アジアでの日中韓の出会い」(10月5日午後3時より)

講師:樋屋史子氏(本学卒業生)。
神戸大学大学院国際協力研究科修士課程在籍。(国際協力政策専攻)



■ 第2回

「北米社会におけるキャリアの仕組み—MBA取得によるキャリアアップ」(12月7日午後6時より)

講師:Keyji Johnsen氏。現職はGI Product Manager, Therapeutics Marketing Department, Business Unit Therapeutics, Nihon Schering K.K.



■ 第3回

「北米・ロシア・アジアにおける国際ビジネスの現状とキャリア形成・将来、国際的なビジネスを行うために、今、何をすべきか?」(12月13日午後6時より)

講師:Jim Fukushima氏。President, HNS International Inc.他。Lyude Anna氏。新潟大学大学院現代社会文化研究科博士後期課程在籍。齊藤正信氏(本学卒業生)新潟大学大学院技術経営研究科専門職学位課程在籍。



「青少年のための科学の祭典」

典2007「新潟県大会が11月24日・25日新潟薬科大学にて行われ、本学から情報システム学科大山毅ゼミが参加しました。

「青少年のための科学の祭典」は、青少年が自分自身で実験や工作を体験し、科学の面白さを感じてもらうために、平成4年から始まったイベントです。今年度の新潟県大会は2日間で約6400名の入場者がありました。

大山ゼミからは専門演習

「青少年のための科学の祭典」

大山ゼミが参加



Bで使用している反応時間測定装置を3台設置して、「反応時間を計つてみよう」と題して出展しました。LEDランプがついたら対応するボタンを押して、ランプがついてからボタンを正しく押すまでの時間を計ると、簡単な実験です。数千人の人たちが実験に参加し、親子で競い合つたりして楽しそくにボタンを押していました。

国際理解セミナー3回開催

本学の国際交流委員会では昨年度より、

国際理解セミナーを開催してきました。本学学生が海外へ目に向ける機会をもうけ

ること、これが目的です。授業外の時間に、学内で定期的に、進めていくと考えています。これまで3回にわたり実施してきました。いずれも会場は国際交流センターです。

毎回、多くの学生が足を運んでくれてい

ます。忙しい時間を縫つて、駆けつけてくる教職員もあります。本学では派遣留学制

度(情報文化学科)と夏期セミナー(情報シ

ステム学科)を通じて、すでに多くの学生を海外へ送り出しています。国際理解セミ

ナーは留学を決めかねている学生に対して、

留学後の進路の広がりについて予感しても

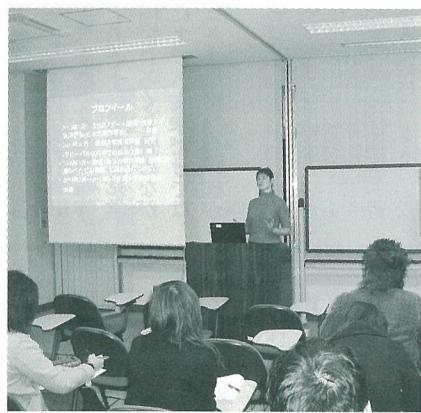
らうこと、および、留学した学生に対して、仕事の舞台を日本に閉じる必要はないと思

識してもらうこと—この二つを狙いとしてい

ます。とりわけ、右記開催リストにありますよ

うに、本学卒業生を講師として招くことができるのは、在校学生たちへの大きな刺激と

卒業生が講師、大きな刺激 海外へ目に向ける機会に



(国際交流委員会委員長

情報文化学科・教授 白井陽一郎)

なり、またそうした卒業生を輩出している本学への誇りを新たにしてくれないと、教員側では非常に喜んでおります。

開催にあたっては学外講師の皆さんに多大なご協力をいただき、あらためて感謝申し上げます。運営は厳しい予算事情で開催されていますが、今後もこの有意義なセミナーを続けていきたいと考えています。

(国際交流委員会委員長

情報文化学科・教授 白井陽一郎)

「レンズ越しに見た本物たち」

写真家・板垣真理子氏を迎えて

本学と新潟日報社の連携講座開く

写真家の板垣真理子さんを講師に迎えて、本学と新潟日報社の連携公開講座が12月8日、新潟中央キャンパスで開催されました。「レンズ越しに見た本物たち」と題したお話に、参加された多くの方が魅了されました。

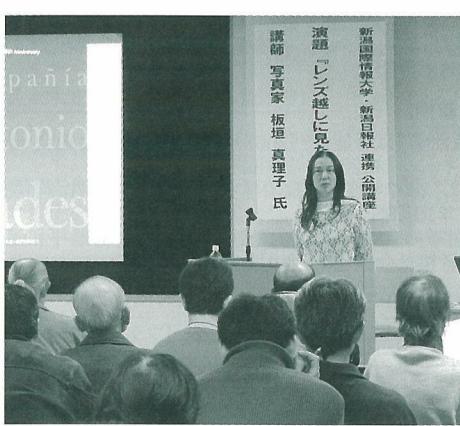
板垣さんは宮崎県出身。1980年にジャズミュージシャンを取り材したのを機に写真ジャーナリストの世界に入り、その後、単身でアフリカ各地を取材、南米、カリブ、アジア

など灼熱の地を愛して旅をし作品を発表しています。各地の文化、音楽、民族衣装、世界遺産などテーマを掘り下げて写真と文で熱いレポートを続け、踊るカメラマンの異名を持ちます。

今回は、フラメンコというものに知識もない人にも名前を知られているスペインのアーティス

ト、アントニオ・ガデスとの出会い、彼が自ら結成したガデス舞踊団やキューバのブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブなどの写真撮影・取材を通して感じたことを中心に、人柄、エピソードなどを

普段なかなか聞くことのできない苦労話も披露され好評でした。



講師 写真家 板垣 真理子 氏

演題 「レンズ越しに見た

新潟国際情報大、新潟日報社連携公講座

中間発表会

9教室で123人が挑戦
熱を込め完成めざす

情報文化学科4年 次生の卒論中間発表会が10月27日に本校(みずき野)キャンパスで行われました。当日は雨の

悪天候でしたが、1年次生から3年次生までを含む多くの学生が参加しました。

員の司会進行により4年次生123名の卒論中間発表が行われました。熱のこもった報告を行い、先生方や他の学生からの質問に応答し、4年次生は緊張感の中にも充実した1日を過ごしました。

だつたと反省していま
す。逆に、音で時間経過
を示した方が分かりや
すくて良かったという
意見もありました。時
間配分の点では、担当
委員によつて違う形式
がとられ、ある部屋では
ベルが鳴つたら必ず次の
行程に移らなければな

教科・科目	合格者発表日
文)・現代文 か・積分を除く) Ⅰ 教科を試験場で選択	20年2月7日(木)
年度のセンター試験の中から2教科2科目選択	20年2月22日(金)
合は高得点の 科目を合否判定に使用)	

時間経過の通知に工夫を

究を進めていく上でヒント・参考を得られる機会となりました。

発表会委員会代表・情報文化学科3年 石塚 武志
副代表・情報文化学科3年 小林 沙耶香

また、評価用紙を回収するタイミングが難しく、発表を終えた学生が評価用紙をいつ受け取れるのか分かりにくかったという点もありました。

こうした利点難点を踏まえたうえで、今後もより良い発表会を開催していくだけたらと思います。

過去最多の企業が参加

き――これから10年、企業と地域を活かす感性」と題して講演をいただきました。大きく変化した時代に即した感性の重要性について述べられ、参加者に高い関心を持つていただき

した。大変有意義な一日となりました。本学教職員との活発な情報交換が行われ、さらなる交流を深めることができた。この発声で開宴となりました。



企業懇談会開く

会を開く

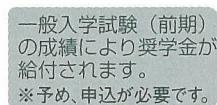
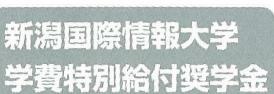


講演する鳶氏

■平成20年度 入学者選抜試験概要(要約一覧)

入試区分		募集人員		出願期間	試験日	試験地	試験実施教科・科目	合格者発表日
一般入試	前期	情報文化学科	35	95	20年1月7日(月)～ 22日(火) ※出願期間内消印有効	20年2月2日(土)	新潟 上越	・国語：国語総合（現代文）・現代文 ・数学：数学Ⅰ・数学Ⅱ （数学Ⅱは、微分・積分を除く） ・外国語：英語Ⅰ・英語Ⅱ 上記3教科の中から2教科を試験場で選択
		情報システム学科	60					
	大学入試センター試験利用	情報文化学科	15	35	20年1月30日(水)～ 2月14日(木) ※出願期間内消印有効	20年1月19日(土)、20日(日) の大学入試センター試験を受験していること	新潟	学科試験を課さず、20年度のセンター試験の成績で判定。全教科の中から2教科2科目選択 配点：各教科100点。 (3科目以上受験した場合は高得点の2教科2科目を合否判定に使用)
		情報システム学科	20					
	後期	情報文化学科	10	25	20年2月15日(金)～ 3月3日(月) ※出願期間内消印有効	20年3月10日(月)	新潟	・国語：国語総合（現代文）・現代文 ・数学：数学Ⅰ・数学Ⅱ （数学Ⅱは、微分・積分を除く） ・外国語：英語Ⅰ・英語Ⅱ 上記3教科の中から2教科を試験場で選択
		情報システム学科	15					

(注)情報文化学部の定員は、情報文化学科100名、情報システム学科150名、合計250名です。



情報文化学科	3番以内—I種	8番以内—II種
情報システム学科	5番以内—I種	14番以内—II種

I種 授業料全額（年額675,000円）
II種 授業料半額（年額337,500円）

◎入試と奨学金の詳細については事務局までお問い合わせ下さい。TEL025-239-3111 E-mail sakumu@nuis.ac.jp



紅翔祭が開催された10月21、22日は、両日とも天候には恵まれませんでしたが、皆さまのご協力により無事終えることができました。

今年度は実行委員が2年生主体だったので何を行うにおいても苦難の連続でしたが、その中で先輩方のアドバイスや関係者の方々にご協力を仰ぎ、多彩なイベントを行うことができました。

父母会とみずき会のご後援による文化講演会では、俳優の黒沢年雄氏をお招きいたしました。「人生プラス思考で」と

紅翔祭を無事終えて

紅翔祭実行委員長
高津 安行(情報システム学科2年)

いうテーマでご自身の体験談を交えたユーモアあふれる講演に、会場のたくさんの人たちが聞き入っていました。

今年度は博多華丸・大吉、ハローケイスク、タカダコーポレーションによるお笑いライブも開催され、見に来ていただいた大勢の方たちも今回のテーマである「HAVE A PLEASANT TIME」のとおり、楽しいひと時を過ごしていただけたと思います。

準備期間や当日を振り返っても大変だったというイメージしか浮かんできませんでしたが、実行委員のみんなと協力して紅翔祭という大きなイベントを成功させ、僕にとっても充実した日々を過ごすことができ、楽しいひと時だったと思えます。ご協力いただいた教職員、ご父兄、企業の方々に厚くお礼申し上げます。

意識である。そのような社会の病んだ価値観の強固さこそ、ロツクが批判してきたものだ。だからこそアーティストたちがロールスロイスに乗るほどまで商業化しても、ロツクは反抗という契機を失うわけにはいかない。したがって以上のよほな批判はロツクシンガーがロツク以外のスタンダートナンバーを歌うという愚行にもそのまま向けられる。末期のプロゲレッシブ・ロックが陥ったクラシック・コンプレックスも恥ずかしい。ロツクがロツク的な存在基盤を否定してどうするのか。元暴走族とか元ヤンキーという形容詞のつくる人たちが説く道徳が、驚くほど現状肯定的で権力にござるものになるのも同じ経緯による。簡単に反省するくらいなら、最初から反抗などしないでもらいたい。

「楽しいひと時」提供できた

てジ業し業言のは　て相空はをはた入だが

「旅行業界」——どのようなイメージをお持ちでしょうか？私は、旅行がとにかく大好きで、接客も好きだつたので、この業界に憧れを抱いて入社しました。そして早くも一年がたとうとしています。仕事の内容は、主に店頭営業で、カウンター受付をしています。今は、JRの切符や航空券、国内旅行の相談受付を担当しています。

入社した当初は、右も左も全く分からず、時刻表の使い方すら分からぬ：先輩方の言つている言葉 자체が専門用語や業界用語で、とにかく勉強の毎日でした。入社以前の私にとって、「旅行業界」といえば少し華やかなイメージがありました。しかし実際に働いてみると、予想以上に細かい作業が

CEP、留学の経験を生かして

多いことに驚きました。一人ひとりのお客さまが求めている旅行をつくるのに、一つの小さなミスがあつても、せつかくの旅行が台無しになってしまいます。ですから、パンフレットの脇に書いてある小さな小さな文字も見落とさないようにしています。視力が2・0の私も、来年は

行でこんなにも面白いんだなと肌で感じることができました。世界はとても広いと思っていましたが、大学での留学をきっかけに視野も海外へと広がりました。世界は広けど、行けるんじゃないかな!?と思つて、今日このごろです。

は、JRの切符や航空券、国内旅行の相談受付を担当しています。

「旅行業界」——どのようなイメージをお持ちでしょうか？私は、旅行がとにかく大好きで、接客も好きだったので、この業界に憧れを抱いて入社しました。そして早くも一年がたとうとしています。仕事の内容は、主に店頭営業で、カウンター受付



社会人として心掛けていることは、正しい敬語が話せるようになること！行動に責任を持つこと！挨拶をしつか

湧 YUUGEN
源

編集後記に代え丁

広報委員長 越智 敏夫

意識である。そのような社会の病んだ価値観の強固さこそ、ロツクが批判してきたものだ。だからこそアーティストたちがロールスロイスに乗るほどまで商業化しても、ロツクは反抗という契機を失うわけにはいかない。したがって以上のようない批判はロツクシンガーがロツク以外のスタンダードナンバーを歌うという愚行にもそのまま向けられる。末期のアロケレッシング・ロックが陥ったクラシックコンプレックスも恥ずかしい。ロツクがロツク的な存在基盤を否定してどうするのか。元暴走族とか元ヤンキーといつ形容詞のつくりたちが説く道徳が、驚くほど現状肯定的で権力にこびるものになるのも同じ経緯による。簡単に反省するくらいなら、最初から反抗などしないでもらいたい。